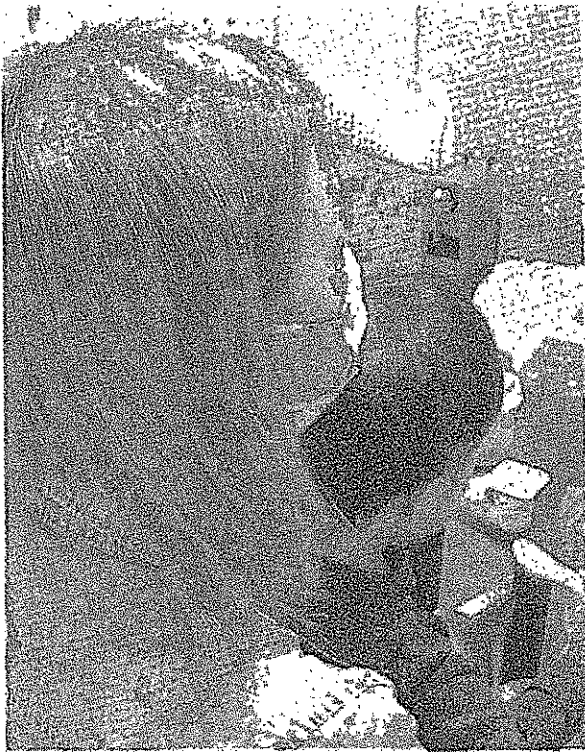


今を生きる子どもたち

貧困と格差の拡大のなかで

III

③



七海くん朝ご飯を食べさせるアスカさん

「産む前はすごく不安だった。育てられるのかなって」
2歳になった七海くんを保育園に送る車中でアスカさん(22)がいます。「暗い色

は気分が落ち込むから」と明るく染めた髪。出産は、二十歳の誕生日の少し前でした。

6歳の時に母親と死別したアスカさん。残された子ども

笑顔の違いがうれしい

たちを男手一つで育てていた父親は借金で夜逃げを繰り返して、アスカさんたちきょうだいは児童養護施設に入りました。紆余(うよ)曲折の後、アスカさんは1年遅れで高校に入ることができました。

たくさんの困難

授業中落ち着いて座っていることのできなかったアスカさんは、毎日のように保健室に顔を出しました。養護教諭の西田由美子さんに、「今まで生きてきていいことなんて一つもなかったし、これからもないと思うから早く死にたいんだよね」とつぶやいたことも。「足の踏み場もない部屋、昼夜逆転の生活、偏食、小学校3年生程度の学力……。知れば知るほど、アスカはたくさんの困難を抱えていた」と西田さんは当時を振り返ります。

結局アスカさんは3カ月で

高校を中退。1人暮らしを始めてまもなく「風俗」で働くようになり、じきにホストクラブの男性との同棲(どうせい)を始めました。「気にならなくて」、連絡を取り続けた西田さんに妊娠の知らせが届きました。

「妊娠に」気づいたときにはもう中絶できなくて。悩んで、悩んで。かわいいと思えないんじゃないかって」

不安が喜びへと

不安を訴えるアスカさんを、西田さんが物心両面で支え続けました。相手の男性も一緒に、少しずつ出産・育児の準備をすすめていきました。だんだんに不安が喜びに変わっていきました。出産にかけた西田さんに、赤ちゃんを傍らにしたアスカさんは「幸せ」といいました。男性はホストをやめ、建設

関係の現場の仕事に就きました

た。アスカさんも昼間のアルバイトに。西田さんの紹介した保育園を2人で見に行き、保育の方針に納得して、七海くんを入園させました。2人の子育てを西田さんと保育士たちがみんなで助けます。「実は家計がたりなくて」とアスカさん。毎月1〜2万円足りなくなると、西田さんに借りてしまいます。給料が入るとすぐに返すものの、次の月にはまた足りない。「やりくりできるように、がんばらなくちゃ」というアスカさん。西田さんが「お金の使い方を一緒に考えようね」と助言します。

保育園の友だちと一緒に遊ぶ七海くんを、仕事の時間ぎりぎりまで見守るアスカさん。「家で私に見せる笑顔と保育園での笑顔が違うんだよね」。その違いが、うれしいのだと。

(文中仮名。つづく)